

寄贈品コーナー「3.11 東日本大震災写真展」

2015年
会期：3月5日(木)～5月10日(日)

2011年3月11日に起きた東日本大震災は記憶に新しいことでしょう。三陸沖の深さ約24kmで発生したこの巨大地震は、地震そのものによる被害のほか、津波、火災、福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能汚染や大規模停電など、未曾有の大災害をもたらし、東日本太平洋沿岸のみならず、日本全国に大打撃を与えました。この震災による死者・行方不明者は18,000人以上、建築物の全・半壊は40万戸以上に達し、未だ23万人以上の方々が避難生活をおくり、復旧作業が長期化しています。

この地震は国内観測史上最大のマグニチュード9.0で、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型の海溝型地震でした。東北日本の日本海溝沿いでは数十年～百数十年に一度程度、マグニチュード7～8.5程度のプレート境界地震が起きていましたが、今回の地震は、歴史上珍しい、1,000年に一度程度か、それ以上の間隔の低頻度大規模地震だったのです。

ここでは、東日本大震災の東北地方の被害の状況と、復興への取り組みについて写真で紹介합니다。平塚周辺でのこの地震による被害については、特別展「天変地異—平塚周辺の自然災害」の中で紹介します。



液状化によるマンホールの抜け上がり
(山形県蔵王町円田)



津波により建物2階に乗り上げたバス
(宮城県石巻市雄勝町)